

■2017 夕撃旅団 増刊号

夕 撃
改
E X T R A
旅 団

ベトナム戦争とベトナム戦争におけるアメリカ空軍の基礎知識

■2017 増刊 ベトナム戦争とアメリカ空軍の戦いの基礎知識 序文

ベトナム戦争は、アメリカ空軍にとって悪夢のような戦争でした。
陸軍航空軍として参戦した第二次大戦が彼らのピークだとしたら、
そのドン底がベトナムだったと言っていいでしょう。

第二次大戦後、アメリカ空軍を陸軍から独立させた
爆撃機至上主義者、ボンバーマフィアたちが
戦略空軍、単独で敵国を屈服させる、空軍の究極形として完成させたのが
1960年代のアメリカ空軍でした。
それは核兵器に特化した大型爆撃機、
そして大陸間弾道ミサイル、ICBMに固められた空軍だったのです。

戦後、アメリカ史上有数のキチガイ将軍、カーチス・ルメイが率いる
戦略航空司令部(SAC)がその流れを主導したのですが、
それは通常の戦争では何の役にも立たない空軍であり、
実際、アメリカ空軍が自ら開発した戦闘機はほぼ全く
ベトナムの空のあらゆる空中戦で役に立ちませんでした。

さらには地上攻撃機も決して十分なものでは無く、
結局、ベトナムでは戦闘機も攻撃機も全て海軍が開発していた機材で救われます。
そうでなければ、もっと悲惨な結末になっていたでしょう。
端的に言って、陸軍時代を含めてアメリカの航空戦力が最悪の状態にあった時に、
最悪の戦争に巻き込まれた、というのがベトナム航空戦だったのです。

無論、それだけでなく大統領を頂点とする戦争指導部のお粗末さ、
という問題もあり、それらが複合的に悲劇を生み出した戦争、とも言えます。
この辺りをちょっと詳しく見て行こう、というのがこの記事なのです。
では、前置きはこのくらいにして、さっそく行ってみましょうか。

■ベトナム戦争の基礎知識

ベトナム戦争はベトナム共和国(Republic of Vietnam/以下南ベトナム)の国内内戦です。

1960年代当時、南北に分断されていたベトナムでは、北を共産主義者が、南を資本主義者…というよりはスカポンタンのアメリカ傀儡政権が支配していました。

その南ベトナム国内で共産主義を掲げる反政府組織、ベトコンが内戦を引き起こしており、それに対して南ベトナム政府側に立ってアメリカが参戦したのがベトナム戦争です。

よってアメリカ陸軍と南ベトナム軍の主な相手は、南ベトナム国内の共産系反政組織、民族解放戦線(National Liberation Front)、略してNLF、いわゆるベトコンとなります。

アメリカ軍が戦った相手は、隣の国の北ベトナム軍(ベトナム人民軍/PVA)ではない、という点に注意が要ります。

ベトナム戦争が宣戦布告無き戦争、とよく言われますが、国家間の戦争ではなく、あくまで内戦ですから、両者に宣戦布告が無いのは当たり前、ともいえます。ただし、その中でアメリカは北ベトナムを空爆してしまうので、話はそう単純ではないのですが。

北ベトナムはあくまで南ベトナムの反政府組織、ベトコンを支援していただけで、ベトナム戦争開始当時は、直接は参戦してません。もっとも後に直接介入してくるのですが、それでも戦争は南ベトナム内の内戦、ベトコンの戦争である、という立場でした。

(ちなみにベトコン(Viet Cong)はベトナム語のベトナム共産主義者を短縮した言葉。英語としてのニュアンスはかなり蔑称に近い。

アメリカ兵のスラングだと頭文字を取ってV-C、あるいはCの字、からチャーリーとも呼ぶ。ただしチャーリーといった場合、北ベトナム兵を指す事もあり)

よって、この戦争の目的、勝利条件は南ベトナム国内のベトコンを一掃し、内戦を終わらせる事、

アメリカの傀儡政権である南ベトナムを安泰とする事、になります。

これは南ベトナム国内の内戦であり、政府側のバックにはアメリカが居て、反政府側のベトコンの背後には北ベトナムが、そして北ベトナムの背後にはさらにソ連と中国がついていた、という構図になります。

ちなみにこの時期、毛沢東率いる中国と、フルシチョフ率いるソ連は、

同じ共産主義ながら、どちらも独裁指導者がキチガイでしたから(笑)、すでに仲が悪く、この辺りが問題を複雑にして来るのですが、この点はまた後で。

よってベトナム戦争における「地上戦」は、ほぼ南ベトナム国内限定となります。北ベトナム国内は特殊な例を別にすると基本的に地上戦の戦場にはなってません。後に北ベトナムからのベトコン支援ルートを叩くため、隣国のカンボジアやラオスにまでアメリカ軍、南ベトナムの地上軍が侵入しますが、それでも北ベトナムには直接攻め込まないのです。

同じく北ベトナム側も表立っては南ベトナムへの侵攻をやってません。実態としては戦争後半には北ベトナム兵が南ベトナム国内で戦ってるのですが、それでも公式にはなかなかその事実を認めようとしてません。

この辺りは、アメリカと北ベトナムとの直接対決となると、バックについでソ連と中国、とくに国境を接してる中国の直接介入が起きて、朝鮮戦争のような泥沼になる事をアメリカが(というかジョンソン政権が)恐れた結果です。が、このため、戦争は何が何だかよくわからない、何がしたいのか全く見当がつかない、泥沼戦争となって行きます。内戦ではありますが、その実態は北ベトナムによる全ベトナム統一運動なのですから、北ベトナムがある限り、終わるわけがありません。ところがその北ベトナムには爆撃をするだけで、それ以上は何もしないのです。

ついでに南ベトナムのベトコン、NFLは政治組織なので、実際に戦闘を行ったのは、その私有軍である南ベトナム人民解放軍(People's Liberation Armed Forces of South Vietnam (PLAF))でした。ただしアメリカ側の記述だと、両者はあまり明確に区別されてません。(共産党は国家ではない、というか国家を否定するのが共産主義なので、あくまで党の私有軍。このため未だに中国の軍は党の軍のまま)

ただし南ベトナムのベトコンは当初、北ベトナム政府の干渉を嫌ってた気配があり、その指示に必ずしも従ってません。後にアメリカ参戦に繋がる米軍基地へのテロ行為の多くは、ベトコン単独の暴走で、北ベトナム政府はむしろ迷惑に感じていたフシがあります。ちなみにベトコンが完全に北ベトナム政府の支配下に入るのはおそらく1968年のテト攻勢以降だと思われます。